

高齢ドライバーの危険場面における運転状態の特徴

生体力学研究室 小里明男, 人間工学研究室 井口弘和

Driving Features of Elder Driver in the Accident Situation

Akio Kozato, Hirokazu Iguchi

1. はじめに

自動車事故は人的要因に依るものが90%以上¹⁾を占めることから, 事故に至る原因を探るには, 現場に遭遇した当事者の運転状況を詳細に把握することが必要である。事故調査としては, 警察庁²⁾や保険会社³⁾等の統計があるが, これらはマクロな調査であるため, 安全不確認, 動静不注視がその主因として抽出されるに留まり, 実態を把握するには不十分である。本研究では, 高齢ドライバーの声を自ら調査し, 事故要因と成っている人間の特性を浮かび上げようと試みた。

2. 方法

名古屋市内の老人クラブ3施設に集う60歳以上の現役ドライバーを対象に, 最近, 経験したヒヤリハット場面と運転状態についてのアンケートを実施した。主な調査項目は, 1)場所, 2)時刻, 3)天候, 4)危険形態, 5)自車の方向・速度, 6)相手の種類, 7)相手の発見距離, 8)相手の方向・速度, 9)直前での注視場所, 10)危険時の運転状態, 11)危険時の感想, で全質問数は26問とした。

3. アンケート結果

202名の回答が得られ, 高齢ドライバーのヒヤリ・ハット経験には, 以下の特徴のあることが分かった。

1)市街地や狭路で, 昼間の天候の良い時に発生し (Fig. 1),

2)交差点で, 40km/h未満の車速で直進同士で遭遇し (Fig. 2),

3)左右は注視していたものの, 相手車両が突然出現あるいは, 予想外の動きなどの見誤りにより (Fig. 3),

4)左側面に衝突しそうになり (Fig. 4),

5)急ブレーキのみの回避行動を取る。

4. まとめ

日頃から安全運転を心掛けている高齢ドライバーにおける弱点として, 見誤りと考えられる原因により, 横方向からの接近車両に対する認知・判断に問題のあることが明らかになった。

参考文献

- 1) 高齢運転者の事故・違反の特性に関する研究, (1986), 自動車安全運転センター
- 2) 交通統計, (1993), 交通事故総合分析センター
- 3) 交通事故統計資料の活用に関する研究報告書, (1992), 日本損保協会

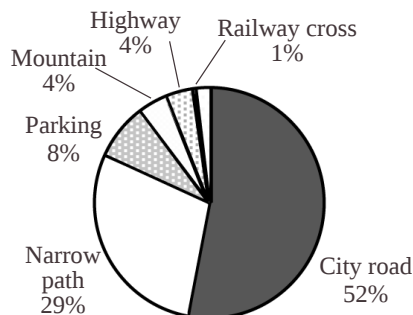


Fig. 1 Accident place.

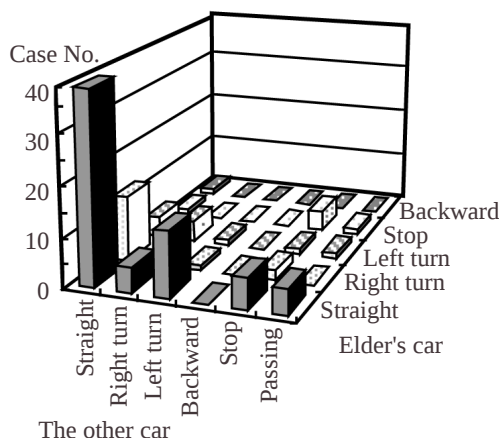


Fig. 2 Move direction on encounter.

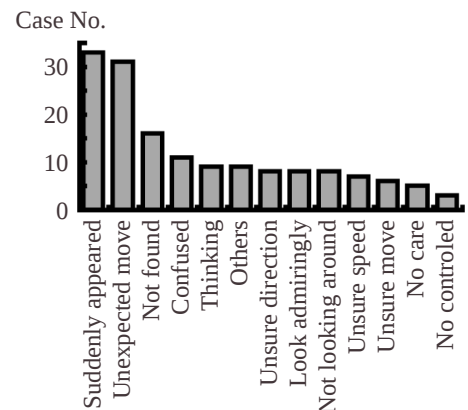


Fig. 3 Impressions on the accident.

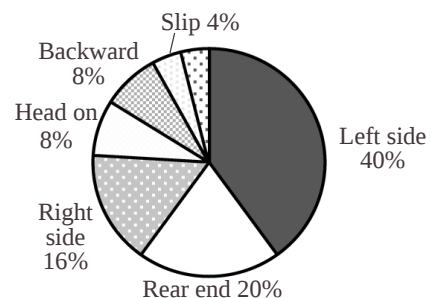


Fig. 4 Collision type.